156

へ13
1961
156

156 三冊
遠
1861
1587

1961
156

寓云ふ痘鬼を赤布に種らして。赤袖葉に
朱雲を染る紅結ひ。蘇木のかしらも奥ゆかし殼
乃沫をちらむ。麓ゆかしさを小豆枕。
足ら一升の夢を結ひ初くれる井の花足袋ゆい。
脚ら歳旨の甲を踏む。赤い物ら色はれよと。
かの紫蘇ゆきの蕃椒ら梅漬羅蔔の色よ
変。紅売の仁王といふ赤まくら猪の赤きふ
及ばる煮飯乃赤味噌ら赤豆子の茸口ふ
紅ばゝ乞ふ夷となるら。かの糟ち麝ち朱書かれ
ナント赤い京合点ゆく　癸丑ら夷　真芋助叙

十二神樂雅輕業
中
大傳馬
二丁目
大和田

「ぬりろくぬきひろう
つやきぬちやうん
うまのよ仲まる
あくあらせ
ふねこやうで
きこうす
あぐき
ぬりろくぬきひろう
つやきぬちやうん
うまのよ仲まる
あくあらせ
ふねこやうで
きこうす
あぐき
「」むべきうの
ろうくき
ちりとぶ
いそひで
おまぐ
ちりとぶ
ろうくぬ

むすとうのひてこうくりのあ
ちりとぶ
きろとる
ヨやく
けーろ
ぬ
いますまる
ずれ
ぬ
むすとあんまり
ちきれて
あつけわ
きろ
ろうんと
しとる

江戸前
大蒲焼
江戸
大かば

十二神系種業

下

大傳馬
二丁目
大和田

みぼくと
かくれば
あらぶる
ぎょうはの
いぢを
ちりよの
ぬきやの
ゲヒ
やふ

發田芋助作